

## 国による製糖工場の建て替え支援を求める意見書

サトウキビは沖縄県、とりわけ離島区域においては、重要な基幹作物であるが、県内の分蜜糖製糖工場の多くが 1950 年代から 60 年代にかけて建設されており、現在更新時期を迎えるなか、予算面の問題から建て替えが進んでいません。

がん蜜糖工場においては国 8 割、県 1 割という高い補助率のメニューにより近年更新が進んできましたが、より高額な事業費が見込まれる分蜜糖工場においては、国 6 割の補助制度のみで、4 割を自治体と事業者で負担しなければならず、予算面の問題から計画が数年間も膠着しています。

石垣製糖工場も築 60 年が経過し、老朽化した建屋、機材類を修繕や一部入れ替えて延命しているのが現状です。

また、老朽化に伴い、工場の処理能力も低下しており、収穫期間の長期化に繋がっております。

特に今期は、長雨の影響もあり 6 月中旬まで収穫作業が続いており、農家の負担増、収入減になっているとの声があります。

製糖工場建て替えを実現し、工場の処理能力を改善することで収穫期間を短縮し、農家の負担を減らし、生産意欲の向上が期待できるとともに、沖縄の製糖産業、ひいては農業全体の発展に寄与するものと考えます。

よって、早急に製糖工場早期建て替えを実現するためにも、県内で唯一更新されている伊是名村と同様に国から 9 割余の支援とそれに伴う補助・交付金などの制度改革も併せて検討していただくよう要請いたします。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

令和 4 年 6 月 20 日

石垣市議会